

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

丸亀市地域公共交通計画の評価等結果（令和３年４月～令和４年３月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
公共交通の利用者数： 4,102.3千人/年（2019年 度）→4,070千人/年 （2025年度）	・利用状況や運行効率等を踏まえた使いやすい路線、ダイヤへの見直しを行う。 ・利便性向上に向けてキャッシュレス決済の導入。	鉄道、航路、路線バス、コミュニティバス（路線の見直しにより代替交通が導入された場合はその代替交通も含む）の年間利用者数	・3,310千人（令和4年3月末時点） ・令和2年度は、コロナ禍の影響で前年に比べ大きく利用者が減少したが2021年度では微増ではあるが増加した。	・コロナ禍の影響による利用者の減少分の回復に向け、次年度においては、商業施設や観光施設の乗り入れを検討し、コロナ禍以前の水準への回復を目指す ・乗降調査、混雑状況把握システムの導入により、バス利用状況を数値化し路線等の再検討を行い運行効率化をはかっていく。	
自動車の交通手段分担率：71％(2015年)→70％以下(2025年)	—	—	—	—	香川県が実施しているパーソントリップ調査の数値を参考にしているため2025年の評価を目標としている。
バス等に係る財政支出状況：101,533千円（2019年）→現状以下（2025年度）	・乗車人数や運行時間帯、経路等状況に合わせて車両のダウンサイジングを検討する。	路線バス、コミュニティバス（路線の見直しにより代替交通が導入された場合はその代替交通も含む）に対して支出している補助金の総額	・102,034千円（2021年度） ・2019～2020年度の比較時より支出額の増加幅は縮小しており、収支に大幅な変動はなし。	・現在は、コロナ禍の影響による国の措置により補助金カットの基準が緩和されているものの、現状のままでは将来的にカットとなる可能性があるため、利用者の回復・増加を図るため、商業・観光施設の乗り入れを検討するなど、利便性向上に努める。 ・乗降調査、混雑状況把握システムの導入により、バス利用状況を数値化し路線等の再検討を行い運行効率化をはかっていく。	
バス等の収支率：21.4％（2019年度）→30.0％（2025年度）	・公共交通利用の活性化につながるよう、商業施設等との連携や割引制度の導入などを検討。	路線バス、コミュニティバス（路線の見直しにより代替交通が導入された場合はその代替交通も含む）の収支率	・18.0％（2021年度） ・乗継可能バス停（マルタス）を追加により、2020年度（17.5％）からの改善された。 ・事業者の人件費の圧縮により改善が見られたものの燃料費の高騰傾向は続くと考えられるため収入増加策を継続していく必要がある。	・現在は、コロナ禍の影響による国の措置により補助金カットの基準が緩和されているものの、現状のままでは将来的にカットとなる可能性があるため、利用者の回復・増加を図るため、商業・観光施設の乗り入れを検討するなど、利便性向上に努める。 ・ピカソこんびら街道店への路線乗入を検討。	

（記載に当たっての留意事項）

- ・ 本様式中、表題の「（○年○月～○年○月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・ 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「—」と記載して下さい。
- ・ 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・ 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・ 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。